

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園南中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	様々な学習データから生徒一人ひとりの学習課題をより詳しく分析し、それに基づく支援体制の充実が挙げられる。知識・技能に関して、基礎的な定着だけでなく、自分自身で定着度を確認することが重要である。AIやICTを活用することで学びの個別最適化の実現に繋がると考える。また、問いに対する無回答が起きないように知識・技能の定着に加え、取組の姿勢や時間配分等についても指導していく。
思考・判断・表現	スクールダッシュボードの活用により授業改善は進んでいるが自ら問いを立て、考え、他者と対話しながら深める学習の充実が必要である。また、無回答率を下げるためにはグループワークやディスカッションなどの活動から考えを深める授業展開に繋げるなど日常的に説明したり、書いたりするなど自分の意見を表現する活動の充実が求められる。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> ICTの導入は基礎知識の定着と習熟において効果的である。しかし、自らの学びをメタ認知し自己調整していく力が弱い。</p> <p><指導上の課題> 生徒一人ひとりの学習状況を把握するための見取りを強化することが課題である。また、課題に基づいた支援体制の充実が必要である。</p>	⇒ スタディサプリやドリルパーク等を活用し、国語や数学における基本的な知識の習得・習熟に取り組む。【朝活動時を中心に実施】 スクールダッシュボードの効果的な活用を目指す。授業内で自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びにつなげられるよう留意する。【各教科担当の指示で実施】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 複数の知識や技能を組み合わせて表現すること。また、思考力を問う問題への取組の状況に二極化が見られる。</p> <p><指導上の課題> ディスカッションやグループワークの時間を増やすことと、教師側から活動のフィードバックする時間がある。</p>	⇒ 授業内容に即して振り返りやテストを活用することで、生徒自身が学習内容を整理し、次のステップへとつながられる授業づくりを行う。【通年・スクールダッシュボードの授業アンケートを活用する】 単元や章、節ごとの学習の区切りにおいて、自分の言葉で学習内容・取組状況をもとめ、整理する。【各教科担当の指示で実施】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	デジタルアプリ等を活用し、生徒自ら学ぶことのできる環境を整えた。またスクールダッシュボードの振り返りを活用し生徒のつまづきを早期に発見し、支援に繋げることで生徒の基礎学力の定着を図った。その結果、自分自身の学びを整理し、適切に表現できる生徒が増加した。ICTの導入は基礎知識の定着と習熟において効果的であり、生徒一人ひとりの学習状況を把握するための見取りを強化したりAIを活用したりすることが次の課題である。
思考・判断・表現	B	スクールダッシュボードを活用して振り返りから授業改善を行った。生徒の学びの形が変化していく中で教員側も授業内容を直すことでより良い授業展開に繋がっている。しかし、自主的に学ぶ姿勢を育成するために授業内でのディスカッションやグループワークを増やし、個に応じた指導や自由度学習など様々な指導から、考察力や表現力のさらなる向上を目指す必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	R7年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、埼玉県の結果と比較し、国語+5.4pt、数学+7.8pt、理科+0.2ptであった。国語・数学ではすべての問題において、全国・埼玉県平均を超える数値であった。理科では「生命を柱とする領域」に関する問題では-4.2ptと課題が見られた。方策としては、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付けられるよう授業で生徒の定着度合いを確認しフォローできるように留意する。 数学においては、「図形の証明」に関する問題で理解度が非常に高いことが伺える。
思考・判断・表現	国語においては、特に「書くこと」に関する問題に得意な傾向がある。数学においては、思考・判断・表現のすべての問題で全国平均を上回る正答率であった。特に「図形」の証明に関しては全国平均を大きく上回り、問題を正しく理解し順序だてて回答する力に長けていることが伺える。理科では全国平均に比べ+5.1ptと知識・技能よりも思考力・判断力・表現力に関する問題の方が得意なことがわかる。その中で課題をあげるのであれば、「粒子」を柱とする領域に関してはまだ伸びしろがある。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	第1学年では、全ての教科で、市の平均を上回ることができた。特に理科・数学では多くの問題で高い正答率が見られた。 一方で、第2学年では、全ての教科で市の平均を下回っていた。特に理科・国語で無回答率が比較的高い問題が見られており基礎的な学力の定着が課題と考えられる。
思考・判断・表現	第1学年では、知識・技能と同様に、全ての教科で、市の平均を上回ることができた。しかし、理科の第2分野において市の正答率を下回っており領域によって定着度に差があることが分かる。また、知識・技能の+ポイント数と同様な値が思考・判断・表現でも見られた。 第2学年では、数学の「与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に則して解釈することができる」などの読解力が問われる問題において市平均を大きく下回っていた。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	ICT機器やデジタルアプリを活用し基礎的な知識を身に付けるよう指導を行っている。また、生徒の学習状況を把握し適切にフォローできるように授業アンケートを活用し日々の授業を見直し指導を行う。	変更なし
思考・判断・表現	B	生徒の定着度合いに合わせて、学習のフィードバックやテストを行うことで、生徒が自身の学習内容・取組状況を整理・調整することにつながっている。学習が得意な生徒だけでなく、苦手な生徒にも適切な指導ができるように引き続き各教科でスクール・ダッシュボードの活用を学校全体で取り組んでいく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)